



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	コーケン工業 第3工場 新築工事	BEE	0.8	BEEランク B- ★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8 /5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		3.0	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④ビルクロスの耐用年数は20年 ④給排水配管の耐用年数は40年、消火設備の配管には30年耐用できる配管を使用した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数18%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。 ⑥敷地の39.3%の空地を設け、風の通り道を確認し、敷地内の温熱環境が良くなるよう配慮した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨外皮性能の向上と一時エネルギー消費量を抑えるように配慮した。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪大便器は、超節水型便器を採用し、節水ができるよう配慮した。 ⑬断熱材は発泡剤を使わず、グラスウールを採用した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積比を58%とし、風通しが良くなるよう配慮した。また、敷地や建築物に対し十分な台数の駐車場を設置し、交通負荷が抑制できるよう配慮した。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能			
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備			
	3.2 3.2.1 ③	昼光制御			
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数			
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔			
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔				
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔				
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔				
Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出				
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上				
LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制				
2 ⑧	自然エネルギー利用				
3 ⑨	設備システムの高効率化				
4 4.1 ⑩	モニタリング				
4.2 ⑩	運用管理体制				
LR-2 1 1.1 ⑪	節水				
1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無				
1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無				
2 2.1 ⑫	材料使用量の削減				
2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用				
2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材				
2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み				
3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用				
3.2 3.2.1 ⑬	消火剤				
3.2.2 ⑬	断熱材				
3.2.3 ⑬	冷媒				
LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮				
2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善				
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		3.0	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰通信手段の多様化を図った</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性			
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能			
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備			
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備			
	2.4.3 ⑰	電気設備			
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法			
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		3.8	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳工場の階高は7.46m超とし、階高に余裕をもたせた。 ⑳壁長さ比率を、1階0.09・2階0.35としそれぞれの空間にゆとりを持たせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画			
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり			
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ			
Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上				
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		2.7	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の39.3%の空地を設け、風の通り道を確認し、敷地内の温熱環境が良くなるよう配慮した。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積比を58%とし、風通しが良くなるよう配慮した。</p>	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出			
	2 ⑥	まちなみ景観への配慮			
	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上			
LR-2 2 2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材				
LR-3 2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善				

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	コーケン工業(株) 第3工場 新築工事	階数	地上2F		
建設地	静岡県磐田市駒場字流作新田719	構造	S造		
用途地域	工業専用地域・市街化区域、法第2	平均居住人員	307 人		
地域区分	7地域	年間使用時間	1,125 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階			
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年1月17日		
敷地面積	3,670 m ²	作成者			
建築面積	2,086 m ²	確認日			
延床面積	2,481 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境 まちなみ 地域性

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.0

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE静岡2021年SDGs対応版による評価		その他 コーケン工業株式会社は、パイプの加工を中心に、切削、溶接、表面処理まで手がける会社です。
Q1 室内環境 ※本工場は全て生産エリアであるため、省エネ法における計算を行っていない。	Q2 サービス性能 工場の階高は7.46m超とし、階高に余裕をもたせた。壁長さ比率を、1階0.09・2階0.35としそれぞれの空間にゆとりを持たせた。 ビニールクロス使用	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数18%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。また、敷地の39.3%分の空地を設け、風の通り道を確保し、敷地内の温熱環境が良くなるよう配慮した。
LR1 エネルギー ※本工場は全て生産エリアであるため、省エネ法における計算を行っていない。	LR2 資源・マテリアル 大便器は、超節水型便器を採用し、節水ができるよう配慮した。 断熱材は発泡剤を使わず、グラスウールを採用した。	LR3 敷地外環境 卓越風向に対する建築物の見付面積比を58%とし、風通しが良くなるよう配慮した。また、敷地や建築物に対し十分な台数の駐車場を設置し、交通負荷が抑制できるよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される